

これは、4つの講演からなる20単位の公認セミナー(II)の1つで講師が2名の講演のサンプルです。

(資格制度委員会ver.1.1)

JSDR公認セミナー等事後報告書

1.会の名称	〇〇摂食・嚥下リハビリテーション研究会		
2.セミナーの名称	スキルアップセミナー		
3.申請責任者	摂食 太郎	(代表世話人)	
4.申請者所属・連絡先	〇〇大学〇〇学部		
	〒000-000 〇〇県〇〇市…………….		
	電話 000-000-0000	eメール: …@…jp	
5.実施年月日	2010年2月28日(日曜日)		
6.会場	〇〇大学〇〇学部7号館502号室		
7.セミナー種類	公認セミナー(II)	20単位	4講演の第4番
8.申請時からの変更	無し。但し、講演時間の5分延長があった。		
9.参加者職種・人数	本学会員、医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、言語聴覚士、栄養士、作業療法士、理学療法士、学生	123名	
10.予定時刻	開始:18時00分	終了19時30分	講演時間 90分
11.実施時刻	開始:18時00分	終了19時35分	講演時間 95分
12.講演名	嚥下造影のコツ		
13.講師1:	嚥下 花子	所属・職位	〇〇大〇〇学部〇〇学科・講師
	嚥下リハ学会認定士	有	講演時間 60分
14.講師2:	栄養 二郎	所属・職位	〇〇大病院・栄養士
	嚥下リハ学会認定士	無	講演時間 35分
15.講演の内容	嚥下造影は摂食・嚥下リハビリテーションにおける運動学的評価を唯一可能にする評価法であることを強調した。JSDR医療検討委員会の手法を効率良く行うための準備とコツについてビデオを用いて解説した。また、VF中に行う代償法の考え方と効果を実証的に示した。咀嚼嚥下の概念とそれを評価する意義、評価方法を強調した。eラーニングコンテンツと矛盾のない内容であった。また、栄養士が検査食品の調整法を実演した。		
16.講演の成果	予定通りに開催された。ビデオを多用したわかりやすい内容であった。咀嚼負荷嚥下の概念や嚥下造影中の代償手技の適応方法はその効果が詳しく理解できた。検査食品調整の注意点は参考になった。質問もあり活発であった。このため時間が5分延長した。認定士のスキルを向上させる効果があると考えられた。		
17.参加証発行数	11件		

原則的に申請者が記載して、セミナー終了後1週間以内に送付下さい。

折り返し、確認のPDFファイルを事務局より返送します。

事務局 jsdr@fujita-hu.ac.jp

複数の講演からなる場合には講演ごとに記載してください。

(4つの講演からなるセミナーは、4通必要になります)

7 セミナー種類は承認証の記載を転記してください。講演の順番を記してください。

8 申請時からの変更があれば記載してください。

9 参加者職種はわかる範囲で記載して下さい。

参加者人数は概算の場合は約00名と記載して下さい。

14 講師2は1つの講演に2名の講師で行った場合に記載してください。

2名以上で講演を行った場合には1名ごとの講演時間を概算でも良いので記載して下さい。

15 講演の内容を簡潔に200字以内で記載してください。

16 講演の効果について200字以内で記載してください。

17 参加証発行数を記載してください。